

第1部

序 論

1. 計画の背景と目的

本広域行政圏では『ゆたかさと魅力あふれるいきいき圏域』づくりをめざして、平成 12 年 8 月に「第 3 次衣浦東部広域行政圏計画」を策定し、都市基盤、居住環境、産業振興、健康・福祉、文化・教育スポーツ等の広い分野にわたって魅力ある圏域づくりを進めてきました。

しかしながら、圏域をとりまく状況は、バブル経済の崩壊や平成 20 年 9 月のリーマン・ショックなどによる経済の低迷、「少子高齢化」、「グローバル化（全地球化、世界化）」、「IT 化」の一層の進行に加えて、圏域の周辺部には、「国道 23 号知立バイパスの立体化工事」、「伊勢湾岸自動車道」、「第二東名高速道路」など大規模プロジェクトが事業化されはじめ、大きな変化が見られます。

こうした変化をふまえて、基本計画期間が終了するのを契機に、各地域の特性をいかして圏域の活性化をはかりながら、引き続き快適で魅力的な圏域の都市環境づくりを総合的に進めるため、今後の施策展開の基本となる広域行政圏計画改訂版を策定しました。

2. 計画の性格

この計画は、本圏域がめざす将来像とそれを達成するための諸施策および具体的内容を明らかにし、広域行政の運営を効果的に進めるための基本方針を示すものであり、圏域内の各市をはじめ、住民、企業等の民間、国、県等のさまざまな主体の取り組みをめざした「地域協働計画」としての性格を持つものです。

このため、本計画の実施については、関係 5 市の調整をはかりつつ、国および県等の関係機関との協調ならびに圏域住民の理解と協力によって進めていきます。

3. 計画の構成および期間

この計画の構成は、「基本構想」、「基本計画」によって構成します。

《基本構想》

本圏域の振興・発展の将来像およびこれを達成するための基本方針を明らかにしたものです。

《基本計画》

基本構想にもとづき、平成 12 年度(2000 年度)から平成 27 年度(2015 年度)までの本圏域の振興・発展のための施策の体系を定めます。

4. 計画の区域

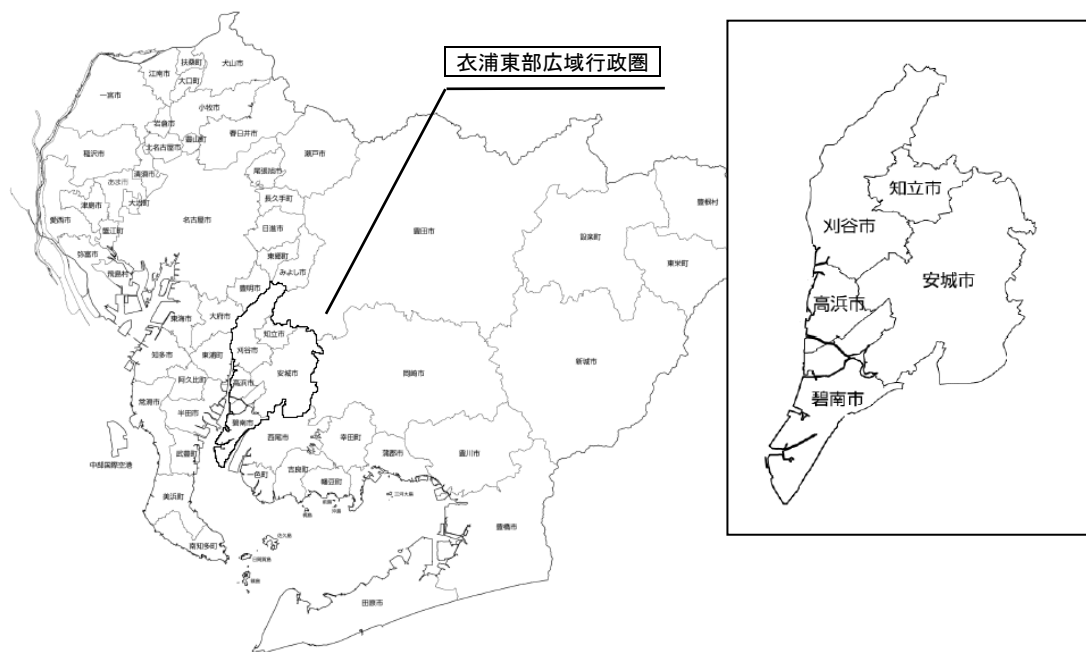
この計画の対象区域は、衣浦東部広域行政圏を構成する碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市の 5 市とします。

5. 圏域の概要

5-1 位置

本圏域は愛知県内のほぼ中央、西三河地域の南西に位置し、東部は岡崎額田、西部は境川および衣浦港、南部は西尾幡豆、北部は豊田市及びみよし市に接しています。面積は 201.66 km² (平成 21 年国土交通省国土地理院発表数値) で愛知県の 3.94%を占めています。

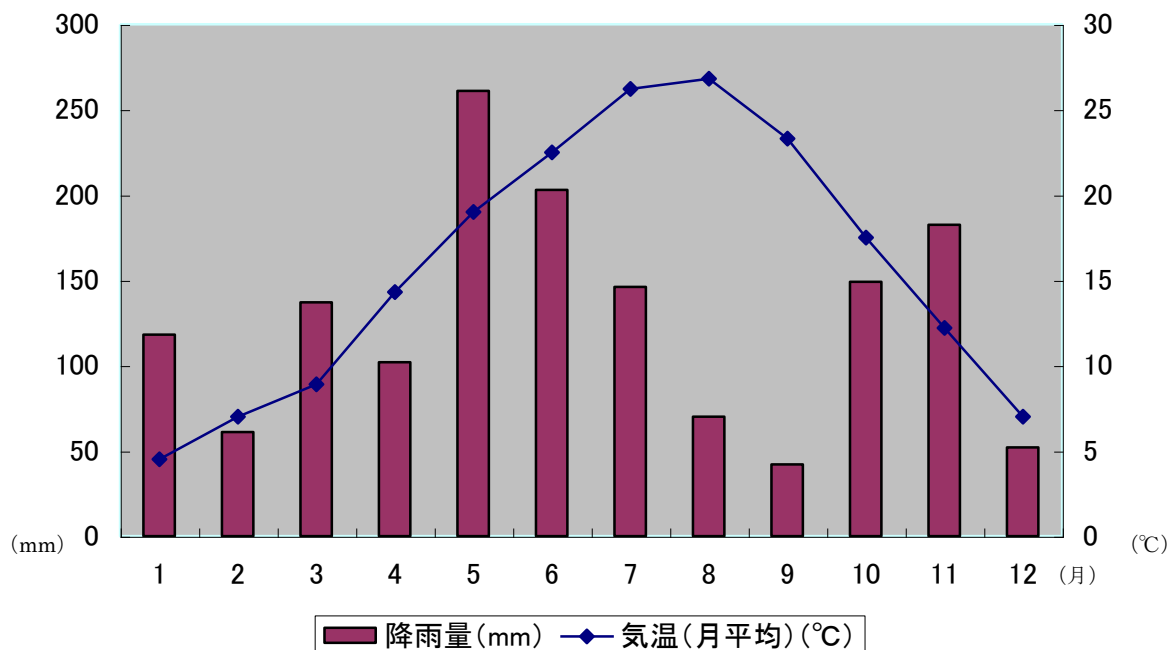
◆位置



5-2 自然条件

地形的には、矢作川、境川に挟まれた平坦地で、圏域北部の丘陵地帯から広大な碧海台地と なって衣浦港に至っています。気象条件は太平洋岸気候地域に属し、冬は北西の季節風が強く、 降水量が少なく、夏は南東の季節風が吹き、降水量が多い地域です。

◆気温・降水量（平成 21 年）



資料：名古屋地方気象台 「愛知県気象月報」 （岡崎気象観測所）

5-3 沿革

境川・矢作川により尾張地域、岡崎額田地域と境を画する本圏域は、古来は青海（アオミ）と 称されていました。

明治 4 年 11 月に三河全域および尾張の知多郡からなる額田県が設置され、明治 5 年 1 月に その管内が 9 区に分かれました。その 2 区として碧海郡（おおよそ現在の碧南市、刈谷市、安 城市、知立市、高浜市）が誕生しました。

明治 5 年 11 月に額田県は廃止になり、愛知県と合併して 15 区に分かれましたが、碧海郡は 第 9 大区としてそのまま存続しました。

その後、明治 22 年の市町村制施行、昭和 22 年の地方自治法施行を経て、それぞれ 5 市が市 制を施行しました。衣浦東部広域行政圏協議会は、旧碧海郡の 5 市が、衣浦東部地域の一体的

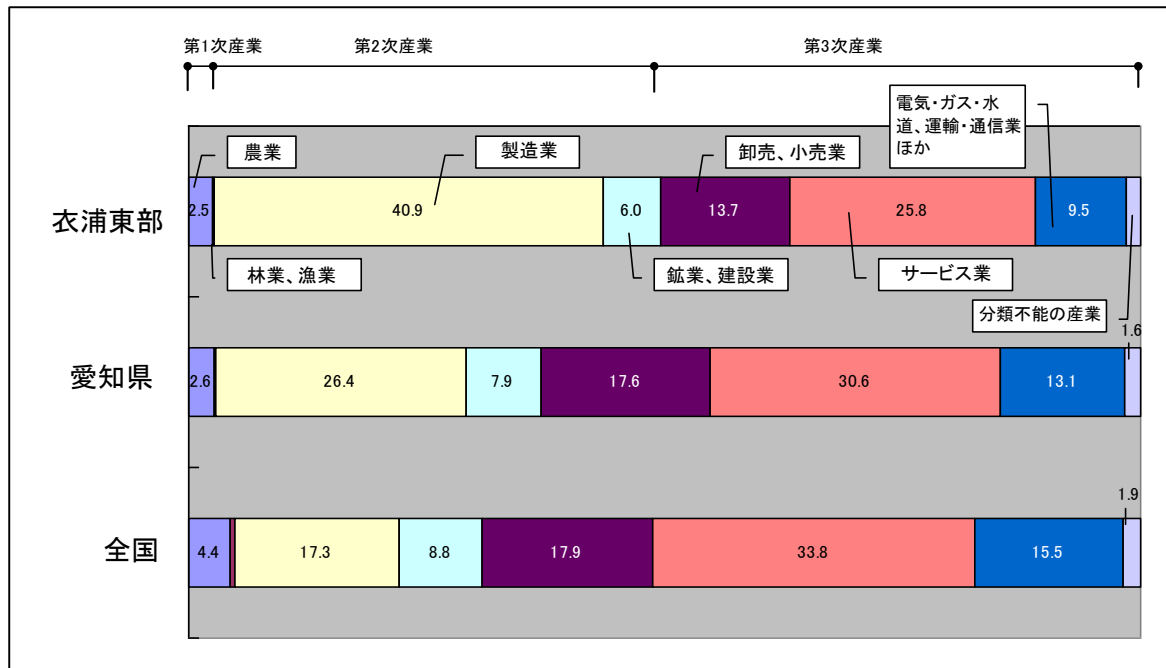
整備と地域住民の福祉の増進をはかるため、愛知県地方計画西三河協議会衣浦東部ブロック市長会を足掛かりとして、昭和 56 年 4 月 1 日に発足しました。

5-4 圏域の位置づけと特性

◆愛知県工業の中核圏域

本圏域は、自動車関連産業の高度な集積を核として、繊維工業、機械・金属工業や窯業等の地場産業など、多様で厚みのある工業集積を誇っています。このため、日本の工場と言われる愛知県内においても、産業構造が工業に特化しており、3次産業化、サービス産業化が進む国内にあって、特徴的な産業・経済構造を示す地域となっています。

◆産業別就業人口構成比の比較



資料：平成 17 年国勢調査結果

◆名古屋都市圏の郊外圏域

本圏域は名古屋市都心から 20～35km の距離にあり、名古屋都市圏の郊外圏域に含まれます。特に、圏域北部の刈谷市、安城市、知立市は交通の便に恵まれていることもあり、人口の流入が盛んです。

また、安城市を中心に、日本デンマークと呼ばれた先進的な農業地帯であったことから、現

在でも大規模な水田農業や施設型農業が展開されるなど、特徴ある姿をみせています。

◆中枢国土軸上にある圏域

本圏域は、日本の中枢国土軸の真っ只中に位置し、JR 東海道新幹線、JR 東海道本線、国道 1 号、東名高速道路に加えて、第二東名高速道路、伊勢湾岸自動車道、さらにはこれら広域幹線道路のバイパス的な道路の整備が進められつつあり、東西の広域交通が集中しています。また、名古屋、豊田方面等と連絡する東西及び南北の産業・生活関連交通も非常に多く、広域・地域間の交通が集中する交通の要衝となっています。

また、平成 22 年 8 月に国土交通省は、衣浦港を「重点港湾」の一つとして選定しました。今後は、国の直轄事業としても整備が進むことが期待されます。

◆共通の企業連携基盤にある圏域

本圏域では、自動車関連産業の高度な集積を軸として、これらを支える運輸・流通産業、サービス産業等が圏域内に大きな広がりを見せており、その他の関連取引企業等も含めて、密接につながっています。こうした産業・経済面での共通の連携基盤を持ちつつ、地域固有の条件や歴史・文化の違い等を背景として、圏域各市はそれぞれに独自の顔をみせています。